

「千年の学校」公開講座『誇りある美しい村づくり』学習会

2月1日(土)・2日(日)の2日間、「千年の学校」公開講座「誇りある美しい村づくり学習会」が開催され、町内外から延べ70人ほどが参加しました。

初日の前半は「日本で最も美しい村」連合の資格委員である山田泰司氏より、2005年の創設時から連合の活動を支援されている企業経営者たちの言葉や創設の理念に加え、発足20年に向けて「5S活動プロジェクト」を推進していくことが紹介されました。

「5S」とは、「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ(躰)」の5つを表した言葉で、改善の指針として様々な企業にも用いられています。

後半のグループワークでは、自身の住んでいる地区の不具合を書き出し、共通するものを整理したうえで、改善策を話し合いました。

「沿道の雑草やゴミ」「耕作放棄地」「空き家、空き施設」「ガードレール・看板・屋根などの色」「河川環境の悪化」「賑わいの喪失」などの意見が出され、その中の「沿道の雑草やゴミ」については、比較的解決が容易ではないかとの意見が多かったです。



2日目に行われた久野脇地区でのフィールドワークでは、初日に学んだ「5S」の視点を持って、散策コース内のポイントをグループに分かれて観察し、より良くするための意見を出しました。観察後は、久野脇コミュニティ防災センターで「くのわき大根そば」をはじめ海老芋や川根茶いなりなどの郷土の食を味わいました。

コース案内を行った「久野脇未来の会」からは、「自分たちが気づかない視点から様々な意見をもらえた。今後の改善に生かしたい」との意見があり、参加者からは「自分たちの地区でも同じ視点で集落内を観察してみたい」といった声も聞かれました。



今後このような学習の場づくりとともに、意見やアイデアに基づいた実践の場づくりにも努めていきたいと考えています。一人ひとりが「小さくても、出来ること」から取り組み、縁や同志を広げていくことが「最も美しい川根本町」の実現につながるはずです。

